

平成22年度 事業報告



1 調査・研究

(1) 研究グループ活動

- ① 情報教育・ICT活用研究G ② 学校組織マネジメント研究G ③ 授業活性化研究G
④ 小学校英語研究G ⑤ 発達理解研究G ※ ①②③は、吹田市教育研究大会で研究発表

(2) 教育情報の収集・発信

- ① センターだより(各月・特別号IV~X)・紀要105号(年度末発行)、所報81(年度末発行)、要覧NO.17(毎年発行)
② 教育資料等の充実・活用、検索システムの改善 ③ 情報教育用コンテンツの充実(ホームページの利用)

2 教職員研修 199講座 参加者 延べ4,865人

(1) 一般研修講座 157講座 参加者 延べ 4,047人

① ライフステージに合った研修講座(84講座)

- ・初任者、新転任者、フレッシュ研修(新規採用養護教諭・栄養教諭・事務職員、新規任用講師)
・ステップアップ研修、ヤングリーダー、学校パワーアップ、10年経験者

② 教育課題別研修講座(20講座)

- ・新教育課程、学力向上、国語力向上、校内授業研究リーダー養成研修
・人権教育、国際理解教育、キャリア教育、情報教育、教育相談、危機管理等

③ 教科・領域別研修講座(23講座)

- ・小学校英語活動(基礎研修、授業研修、指導力アップ、夏季集中)
・授業づくり研修(小学校理科実験観察研修、ICT活用研修、スーパーティーチャーに学ぶ)

④ 幼稚園教育研修講座(2講座)

⑤ 専門職等研修講座(14講座)

- ・事務職員、栄養教諭(栄養職員)、養護教諭、学校図書館担当者、スクールリーダー(首席・教務主任、指導教諭)

⑥ 特別支援教育研修(14講座)

- ・通常の学級支援、通常の学級の事例検討会

(2) 情報教育研修講座 42講座 参加者 延べ 818人

- ① システム管理 ② 情報セキュリティ ③ 情報モラル ④ 校内LAN・ICT機器活用 ⑤ ホームページ・ブログの作成・活用 ⑥ 各種ソフト活用 ⑦ 栄養教諭・栄養職員・学校図書館担当者・校務員研修



3 教育研究大会 参加者 延べ1,456人

- ・平成22年8月30日(月)12:50~(メイシアター他) 全体会、7分科会及び展示

4 教育相談

- (1) 電話・来所相談 情緒・行動、学習・発達、不登校に関する相談が多くを占めました。
(2) 出張教育相談 全ての小学校で隔週1回実施し、さまざまなニーズに対応してきました。
(3) 不登校児童・生徒支援事業 「光の森」活動、家庭訪問活動(フレンド派遣)「学びの森」活動をととして、子どもたちの社会的自立を支援してきました。
(4) 特別支援教育推進事業 巡回相談、教職員研修、保護者啓発研修、ペアレント・トレーニングをととして、子どもや保護者、教職員を支援してきました。
(5) 進路選択支援相談 奨学金や貸付金等に関する電話・来所相談をととして、進路選択支援を行いました。



5 情報教育

(1) SATSUKIネットの普及・運用

- ① 学校園ホームページの管理・更新 ② 教職員へのID、メールアドレスの配付による運用
③ 「校務なび」による学校間連絡体制 ④ サーバセンターを中心としたセキュリティ確保の一元化 等

(2) 情報教育推進支援

- ① 情報教育推進委員会(6回開催) ② 情報教育研修の実施 ③ 情報教育支援員の派遣

◆ 特別支援教育 ◆

1. 校内外教育相談体制の確立

「医師による診断を保護者より告げられた在籍園児・児童・生徒」人数を基に、校内外支援システムを、まず充実していただきたいと思っております。そのためには個別の教育支援計画の作成、個別の指導計画が重要となってきます。

2. 巡回相談の実施

巡回コーディネーター11名、発達相談員、教育相談員がケースまたは学校の要請に応じて巡回相談を行いました。訪問した学校・園は延べ258校内外（H21年度258校内外）、対象園児・児童・生徒は延べ364人（同626人）、校内研修は25回（同22回）です（平成23年1月末現在）。

3. 特別支援教育研修

教職員対象の「通常の学級支援研修」を全7回、「事例研修（学習・行動）」を全6回実施し、全参加者数は637名でした。H23年度の特別支援教育コーディネーター研修はベーシック研修とアドバンス研修の2コースにわけ、より各コーディネーターのニーズに合った内容を提供したいと考えています。事例検討会では学習領域では「読み書き」「算数」「音読」に課題を持つ児童の事例を、行動領域では小学生と中学生の事例を研修しましたが、23年度も学校園からの事例提供をお願いします。

また、保護者支援のためのペアレントトレーニングを実施するとともに、教育研究大会において保護者啓発のための講演会も実施しました。



◆ 不登校児童生徒支援事業 ◆



1. 適応指導教室の本年度の状況

「光の森」が開設されて早や18年。「学びの森」の開設からも、もう3年たちました。

本年度も多くの児童生徒が、「光の森・家庭訪問」「学びの森」それぞれの適応指導教室を居場所として自立に向けた活動に参加してきました。平成22年度の在室数（2月末現在。体験中児童生徒含む）は、「光の森」が29名（中学3年生12名、2年生10名、1年生6名、小学生1名）です。「家庭訪問活動」では本年度3名に対応しました。1名（中学1年生）は家庭の都合で終了、1名（小学生）は本人が登校できていることから現在休止中、1名（中学1年生）は継続中という状況です。「学びの森」は28名（中学3年生13名、2年生10名、1年生が2名、小学生3名）です。

適応指導教室が開設の目的としている「学校復帰」は、なかなかスムーズには行かない現状ですが、それでも部分登校や、ごくわずかですが学校復帰できたケースもありました。その中で、少しずつ取組を見直し、より有効な支援・活動ができるよう改善を図っています。本年度は、まず「学びの森」で、従来水曜日を学校チャレンジデーとして休室としてきましたが、「光の森」同様に週5日の活動にしてほしいとの声があり、また学校チャレンジを水曜日だけでなく、いつもチャレンジしていくべきであろうとの考えから、週5日の活動となりました。また、「光の森」と「学びの森」の連携を深めるため、従来「光の森」にのみ位置づけていた研究員を、両方の森の活動に関わり連絡調整の役を担うように位置づけを変えました。入室に向けた手続きでは、見学に際して学校から提出してもらう「見学・体験希望願い」の様式を変更し、「学校の対応」欄（学校でのケース会議やSCとの協議などを記入）と4月からの欠席日数記入欄を新設しました。これは見学で本人・保護者が「光の森」「学びの森」に来られる前に、その子どもについての状況を出来るだけ把握して、適切に対応できるよう、改訂したものです。

2. 次年度への課題

適応指導教室は単年度ごとの受け入れですので、できるだけ年度中の学校復帰を目標として自立の支援を図っていますが、完全復帰は難しいケースが多いのが現実です。本年度適応指導教室で定期テスト等を受けるのではなく、学校（別室がほとんどですが）で受けるよう支援してきた結果、多くの生徒が学校で受けられました。次年度も学校との連携を深め、テストや行事などを通じて、部分登校から学校復帰につなげられるよう、改善を図っていかねばならないと考えています。

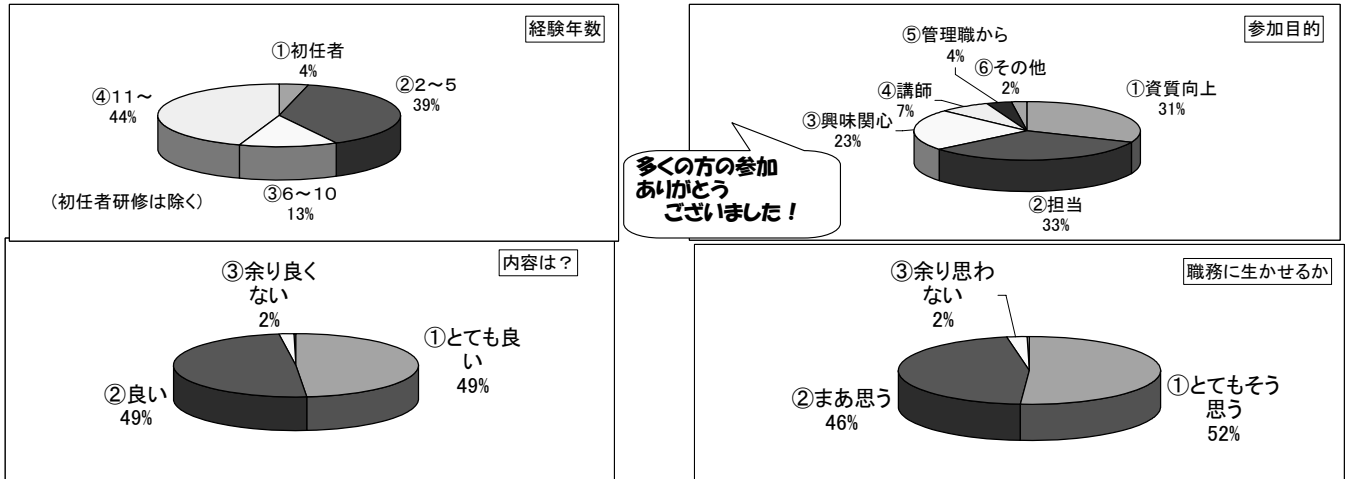
教職員研修

平成22年度は、新教育課程実施に向けての内容や次世代リーダー育成・ICT活用などに重点をおき、合計199の研修講座を実施し、のべ4865人の参加がありました。研修アンケートについては、今年度は119講座で実施し回収率も81.4%でした。多くの方々からのご意見・ご感想ありがとうございました。

■ 平成22年度研修講座と参加者数(2月末現在) 全講座数 199 講座 参加者数のべ 4865 人

研修講座名	講座数	参加者数	研修講座名	講座数	参加者数	
						研修講座名
ライフステージにあつた研修に	初任者研修・新転任者研修	19	894	教育課題別研修	20	824
	フレッシュ研修	32	83	教科・領域別研修	23	758
	ステップアップ研修	18	267	専門職等研修	14	258
	ヤングリーダー研修	6	56	幼稚園教育研修	2	108
	学校パワーアップ研修	5	54	特別支援教育研修	14	731
	10年経験者研修	4	14	情報教育実技研修	42	818

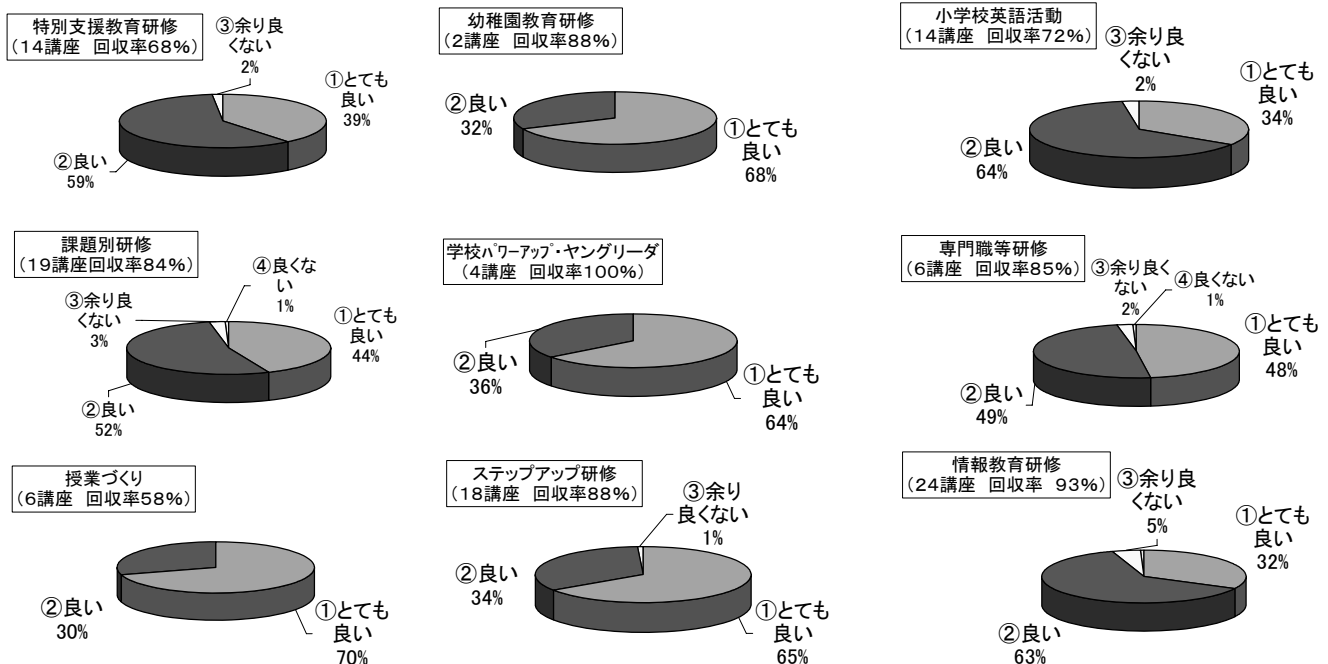
■ 全体結果概要(集計119講座 集計人数 3122人 回収率 81.4%)



研修会参加目的や参加者経験年数は、昨年度とほぼ同じ傾向がみられました。研修内容については、98%の方から「良かった」、また98%の方から「今後の職務に生かせそう」と回答があり、昨年度より高い評価を受けました。特に、授業づくり研修・幼稚園教育研修・ステップアップ研修・学校パワーアップ・ヤングリーダー研修では、6割以上の方から「とても良い」と評価を受けました。研修時間・時期についてや自由記述からもたくさんの貴重な意見がありました。今後は、これらを参考にしながら、今日の教育課題や各学校のニーズも踏まえ、次年度の研修を準備していきます。

■ 講座別結果(「内容はどうでしたか?」に対する回答)

※講座数はアンケート集約講座数



◆ 情報教育 ◆

平成22年度は、以前に比べ大幅に改善された教育用ICT環境をどう活用し実践していくかを情報教育研修会の第一の目的にしました。ICTを活用した公開授業や、校内LANの活用により、コンピュータ室だけではなく、普通教室で学習コンテンツを利用した授業方法等、夏休みを中心に42講座を実施し、受講者は延べ818名となりました。また、今年度は学校を会場にした研修も実施し、会場校の先生方にも多く参加いただきました。



2月情報教育推進委員会

ICT活用公開授業は9回実施し、様々な提案授業を行いました。

2月の情報教育推進委員会では4人の先生の実践報告会を行いました。次年度も引き続き公開授業を行い、様々な提案ができればと考えております。特に情報モラル教育の重要性は認識しているが、授業実践事例を紹介してほしいというアンケート結果もあり、次年度の課題となりました。同時に、情報漏洩等の問題を未然に防ぐための情報セキュリティ意識を向上させる研修の充実も図りたいと考えています。

このように次年度も、教育センター主催の情報教育研修を充実させていきますが、各校においても情報教育推進委員を中心に、校内情報教育研修会を計画するとともに、中学校ブロックにて情報交換をしてください。その際、次年度もICT支援員が各校を訪問しますので、ICT支援員を有効に活用するとともに、講師の紹介やICT機器に関する相談がありましたら、教育センターまで連絡してください。

平成23年度吹田市教育研究大会

H23. 8. 30. (火) 14:00~17:00 メイシアター等

**テーマ「学校が好き 家庭が好き 地域が好き
—地域に根ざした質の高い公教育の創造—」**

14:00~15:00 《全体会》 開会挨拶・基調講演

講師 関西大学教授(吹田市教育委員) 鈴木 直先生

15:20~17:00 《分科会》 研究報告・研究討議等

13:30~17:00 《展示》 パネル・ブース発表等

来年度の研究大会も「教職員みんなで創り上げる研究大会」をさらにめざしていきたいと考えています。各校・園、学研・幼研からの分科会での発信と、併せて、大会前日・当日の運営スタッフを募集しています。奮ってのご参加をお願いします！

※詳細は学校園に送付しております案内をご覧ください。

ワンポイントコラム No.7



今年度のワンポイントコラムでは、幼稚園での取組紹介や、巡回相談についてのメッセージも入れながら「新教育課程における主な改善事項」について掲載してきました。

また、「学力向上」に有効な「ICTを活用した授業デザイン」や、学力を支え子ども理解を深める「教育相談」、新教育課程に対応した「学習評価」、「スーパーティーチャーの実践紹介」等、センターだよりの『特別号(黄色のペーパーです)』として発行してきましたので、是非!活用してください。

平成23年度…小学校では新教育課程による教育活動がスタートします。各学校・園においては、共通認識を持ち、次年度の組織体制やカリキュラムの作成準備等進めていきましょう。